青年期における状況別対人不安と自己愛傾向の関係

山下　侑美奈
（久保 克彦ゼミ）

問題

青年期は，身体的成熟や情緒的自立などの心身の諸機能の変化と，行動や心理の質的な転換が見られる時期である。そのため，心理的にも揺れ動きやすい時期である。他者との関わり方も変化する青年期においては，対人場面においても不安や緊張を感じやすいことが考えられる。

Leary(1983) は，対人不安を「現実の，あるいは想像上の対人場面において，他者からの評価に直面したり，もしくはそれを予測することから生じる不安状態」であると定義づけている。対人不安を引き起こす状況についての実証的研究 [岡野 (1995)，毛利・丹野 (1998)] では，統計手法として因子分析が用いられている。この 2 つの研究を通して得られた因子に一定の傾向は見られたが，常に安定した因子が得られたわけではなかった。そこで，毛利・丹野 (2001) は，対人不安状況に焦点を当てて自由記述調査を行った結果，「発表・発言状況不安」「目上状況不安」「異性状況不安」「親しくない相手状況不安」「会話のない状況不安」の 5 つの下位尺度から構成される状況別対人不安尺度を作成した。

対人不安による障害は決してまれなものではない。海外では対人状況での不安は社会不安 (social anxiety) とよばれ，社会不安障害と社会恐怖はほぼ同義で扱われている。疫学調査では，社会恐怖の生涯有病率を 2 ～ 5% と報告する疫学調査が多い (Judd,1994)。例えば，パニック発作の生涯有病率が 1.5% ないし 3.5%，全般性不安障害の生涯有病率が 5%(DSM-IV) と報告されていることを考えると，社会恐怖が特に珍しいものではないことがわかる。

また対人不安症は日本人に非常に多くみられ，思春期・青年期に特徴的に見られる神経症の一種である (永井 ,1994)。神経症とは心理的原因によって起こる精神障害であり，環境要因と人格要因によって生成する。主な反応としては，不安，ヒステリー，強迫，抑うつなどがある。そして，一般学生を対象にした稲浪・笠原 (1968) や木村 (1982) の調査においても，多くの学生が対人恐怖的な体験を自覚していることが報告されている。

このことから今日では，神経症などの病態として直接に発症として結びつかないまでも，健常な一般青年においても対人恐怖傾向である人見知りや過度の気遣い，対人緊張などの対人恐怖的心性が認められるものは非常に多く存在しており，青年期の正常な発達過程においてもよく経験されるものと言われている。対人恐怖者の抱えている実際の悩みについて，森田 (1960) は，対人不安はそのすべてが対人状況に規定されている特徴を持ち，赤面恐怖 (緊張し赤面することを，人に見られることが恥ずかしくて悩む)，視線恐怖 (人の目が気になる場合と，自分の目つきが周りの人を不快にしているのではないかと悩む場合がある)，表情恐怖 (自分の表情がこわばり，ぎこちなくなり，自然に振る舞えない)，対人恐怖 (人前で緊張することを気にして悩む)，醜貌恐怖 (自分の容貌が醜いために周囲の人に嫌な思いを与えているのではないかと悩む)，自己臭恐怖 (自分の身体から出る臭いが周りの人を不快にしていると思い悩む) などの症状を持つ諸類型の総称としている。

ところで近年，臨床的な体験からの知見において対人恐怖が自己愛との関連について述べられている研究が見受けられるようになってきている。自己愛は DSM- Ⅳ (APA,1994) の人格障害のなかで，その判断基準として記述されているように，誇大性 , 賞賛されたいという欲求，共感性の欠如の広範な様式であり，成人期早期までに始まり，種々の状況で示されるという自己愛人格障害として取りあげられている。しかし，この自己愛は必

ずしもこのような臨床症状として扱われるだけでなく，自分自身への関心の集中と，自信や優越感などの自分自身に対する肯定的感覚，さらにはその感覚を維持したいという強い欲求によって説明される自己愛傾向 (小塩 ,1998) として，青年期特有の人格的特徴でもあるとされている。

このように近年，数を増やしつつある臨床的な体験からの知見における対人不安と自己愛のかかわりに関して北西 (1998) は，臨床精神病理学的立場から自己のあり方を論じており，対人不安で苦しむ人たちは行き過ぎた自己意識ゆえに鋭く悩み，それは自己に執着している姿であるとしている。つまり，それは昨今の自己心理学の説く自己愛の病理とも言い換えることができると述べている。また，岡野 (1998) は，この数年ほどのあいだに恥の病理が自己愛人格障害との関連で広く論じられるようになったことに呼応して，現代的な精神分析の視点からは，対人不安者のもつ性格構造は自己愛の病理として捉えられるとしている。これは，恥の感覚にとらわれやすく対人不安を経験しやすい人には，他人に認められたい，評価されたいという人一倍の欲求があることから，それに圧倒される形で対人場面での恐怖感が生まれるという捉え方であり，対人不安者が最も恐れる感情である「恥」と自己愛の関係に着目し，恥の代表的な感覚は羞恥と恥辱であると考えられる。恥じらいやはにかみなども含まれる羞恥は，自分が他者の注目を浴びてしまうことで，自分が他者と異なることを突然意識してしまったときに起こる感情である。これは決してマイナスな側面だけではなく，自分が優れていると感じた場合でも羞恥の感情は抱くことがある。羞恥の場合は，それほど悩むことではない可能性もある。しかし恥辱の場合は，羞恥より深刻な場合が多い。自己評価の低下や自分自身に対する不甲斐なさ，自尊心の低下などが生起する。対人恐怖はこの恥辱の感情や感覚が本人を深刻に悩ましている状態なのである。

清水・海塚 (2002) は，青年期心性の対人恐怖的心性と人格的特徴である自己愛傾向の関連を検討し，岡野 (1998) の分類に適合し得る 4 タイプを見出して，健常レベルでも独立した 2 変数で捉えられる可能性を示唆している。また，清水・川邊・海塚 (2007) は，対人恐怖と自己愛の概念を包括的に捉えることを目的とし，対人恐怖的心性―自己愛傾向 2 次元モデルを作成した。これは，岡野 (1998) の枠組みを雛形として，横軸の“恥に対する敏感さ”に対応する指標として対人恐怖的心性を，縦軸の“自己顕示欲の強さ”に対応する指標として自己愛傾向を布置したものである。

このように対人不安的心性は，自己愛傾向との関連が多く指摘され，様々な研究が行われてきている。

目的

前述のように自己愛傾向と対人不安との関連を調査する研究が多く行われているが，対人不安的心性を状況別対人不安という観点から研究した研究は，筆者が調べた限りではこれまでに認められない。そこで本研究では，自己愛傾向について状況別対人不安という視点から検討することを目的とする。対人不安に自己愛が関連しているのであれば，状況別での対人不安との関連についても検討することが重要であると考えられる。

仮説

仮説 1：自己愛は男子の方が女子より高い。

清水・海塚 (2002) では，「優越感」因子の下位尺度得点において男子の方が女子より有意に高い得点を示し，また，NPI 下位尺度合計得点においても男子の方が女子よりも有意に高い得点を示した。また，自己愛人格目録短縮版 (NPI-S) を構成する 3 下位尺度には，自尊感情や自信といった非常に強い自己肯定感を意味する項目によって成り立っている「優越感・有能感」と，自分の意見をはっきり言う，自ら決断する，さらにはやや自己中心的という言葉で表すことができるような内容の項目によって成り立っている「自己主張性」があるために，男性の方が高いのではないかと考えられる。

仮説 2：「発表・発言不安」が高い人は，「注目・賞賛欲求」「優越感・有能感」「自己主張性」が低い。

人がたくさんいるところでの発表など人前に出て何かする場合に生じる不安が多く含まれている

「発表・発言不安」が高い人は，「みんなの注目を集めてみたいという気持ちがある」「どちらかといえば注目される人間になりたい」「機会があれば，人目につくことを進んでやってみたい」といった注目されることを望む項目が多く含まれている「注目・賞賛欲求」は低く，注目されることを苦手または恐怖だと感じており，「才能に恵まれた人間であると思う」「周りの人達より，優れた才能を持っていると思う」「周りの人に影響を与えることができるような才能を持っている」といった自分の才能を評価するような項目が多く含まれている「優越感・有能感」も低く，あまり自分の才能を評価していないか，自分の才能を低評価しているのではないかと考える。また，「どんな時でも，周りを気にせず自分の好きなように振る舞っている」「自分で責任を持って決断するのが好きだ」「これまで私は自分の思う通りに生きてきたし，今後もそうしたいと思う」といった自分への自信が高い項目が多く含まれている「自己主張性」も低く自分への自信が乏しいまたは自信がないという人ではないかと考えられる。

仮説 3：「会話のない不安」が高い人は，「注目・賞賛欲求」と「優越感・有能感」が高い。

「会話のない不安」には「自分だけが話の輪の外にいるとき」「会話が途切れがちなとき」などの項目が含まれていることから，単に会話がないという状態ではなく「話の輪に入っている自分」あるいは「途切れのない会話」などを達成するため，「会話したい」のに「会話ができていない」という状況ではないかと考えられる。会話したいのにできていないという状況において「もっと会話がしたい」という欲求が「もっと注目を集めたい」「私の才能を知ってもらいたい」という「注目・賞賛欲求」と「優越感・有能感」と関係しているために，「会話のない不安」が高くなると考えられる。

仮説 4：女子は「発表・発言不安」と「目上への不安」が自己愛と相関がある。

中村・高木 (2012) の研究では青年期における各グループの対人不安・緊張の構造として，大学生女子が「人前で行動することへの緊張」「目上の人への緊張」がグループ分けされている。毛利・丹野 (2001) での研究では，人がたくさんいるところでの発表など人前に出て何かする場合に生じる不安が項目として含まれる「発表・発言不安」と先生や上司，先輩など目上に対する不安が項目として含まれる「目上への不安」で因子を構成している。このことから，「人前で行動することへの緊張」を「発表・発言不安」と，「目上の人への緊張」を「目上への不安」とすることにした。これらの「発表・発言不安」,「目上への不安」といった対人不安は，自己愛と相関があると考える。

仮説 5：男子は「発表・発言不安」と「目上への不安」と「親しくはない相手不安」が自己愛と相関がある。

中村・高木 (2012) では，青年期における各グループの対人不安・緊張の構造として，大学生男子は「人前で行動することへの緊張」「目上の人への緊張」「親しくない他者への緊張」がグループ分けされている。毛利・丹野 (2001) の研究では，人がたくさんいるところでの発表など人前に出て何かする場合に生じる不安が項目として含まれる「発表・発言不安」と，先生や上司，先輩など目上に対する不安が項目として含まれる「目上への不安」とあまり親しくない人や嫌いな人，単なる知り合いなどに関する項目が含まれている「親しくはない相手不安」で因子を構成している。このことから，「人前で行動することへの緊張」を「発表・発言不安」と，「目上の人への緊張」を「目上への不安」，「親しくない他者への緊張」を「親しくはない相手不安」とすることにした。これらの「発表・発言不安」，「目上への不安」，「親しくはない相手不安」といった対人不安は，自己愛と相関があると考える。

方法

調査対象者

大学生 170 名に質問紙調査を行い，回答に不備のあるものを除いた 163 名 (男性 102 名，女性 61 名，平均年齢 20.1 歳) を対象とした。

質問紙

回答者には基本的属性要因：年齢・性別につい

て記入させた。

1. 状況別対人不安尺度

この尺度は，毛利・丹野 (2001) によって作成され，対人不安を引き起こす状況を測定するものである。「発表･発言不安」「親しくはない相手不安」「目上への不安」「会話のない不安」「異性への不安」の下位尺度からなっている。30 項目のそれぞれについて“全く当てはまらない”から“非常に当てはまる”5 件法で評価を求めた。

2. 自己愛人格目録短縮版 (NPI-S)

自己愛の程度を測定するために，小塩 (1998) が作成した自己愛人格目録を使用する。「注目・賞賛欲求」「優越感・有能感」「自己主張性」の下位尺度からなっている。30 項目のそれぞれについて“全く当てはまらない”から“非常に当てはまる”の 5 段階で評価を求めた。

調査形式

2014 年 11 月から 12 月にかけて京都学園大学の授業時間内に質問紙を配布し，その講義中に回収した。回答所要時間はおよそ 5 ～ 6 分であった。また，質問紙については無記名で記入させた。

結果

1. 因子分析

状況別対人不安尺度と自己愛人格目録短縮版 (NPI-S) に各項目に関して，因子分析 (主因子解 -Promax 回転) を行った。

状況別対人不安尺度は，30 項目について因子分析 (主因子解 -Promax 回転) を行い，固有値の衰退状況 F1“発表・発言不安”，F2“親しくはない相手不安”，F3“目上への不安”，F4“会話のない不安”，F5“異性への不安”の 5 因子解を最適解とした。

「人前に出て何かするとき，私は不安を感じる」「人がたくさんいる所で発表するのがこわい」「多くの人の前で原稿を読むとき，私はとても緊張する」という項目から，F1“発表・発言不安”と名付けた。「全く気の合わない人と談笑しているとき，私はとても緊張する」「特別親しくない友人に話しかけるとき，私は不安を感じてしまう」「単なる知り合いで同年代の人と一緒にいるときの緊張感は，他の人より私のほうが強いと思う」という項目から，F2“親しくはない相手不安”と名付けた。「自分より立場が上の人と一緒にいるとき, 私は他の人達より落ち着かない気がする」「自分より立場が上の人に話しかけられた時の緊張感は，他の人より私の方が強いと思う」「目上の人と会うのがこわい」という項目から，F3“目上への不安”と名付けた。「自分だけが話の輪の外にいるとき，私は不安を感じる」「会話が途切れがちなとき，私は不安を感じる」「人と話していて自分のついていけない話題になるのがこわい」という項目から，F4“会話のない不安”と名付けた。「異性と二人だけになるとき，私は他の人たちより落ち着かない気がする」「あまり知らない異性と話すのがこわい」「気になる異性に話しかけるときの緊張感は，他の人より私の方が強いと思う」という項目から, F5“異性への不安”と名付けた。

次に，自己愛人格目録短縮版 (NPI-S)　30 項目について因子分析 (主因子解 -Promax 回転) を行い, 固有値の衰退状況 F1“優越感･有能感”, F2“注目・賞賛欲求”，F3“自己主張性”の 3 因子解を最適とした。

「才能に恵まれた人間であると思う」「周りの人達より，優れた才能を持っていると思う」「周りの人に影響を与えることができるような才能を持っている」という項目から, F1“優越感･有能感”と名付けた。

「みんなの注目を集めてみたいという気持ちがある」「周りの人が私のことを良く思ってくれないと，落ち着かない気分がする」「機会があれば，私は人目につくことを進んでやってみたい」という項目から，F2“注目・賞賛欲求”と名付けた。「自分の意見をはっきり言う人間だと思う」「控えめな人間とは正反対の人間だと思う」「自分で責任を持って決断するのが好きだ」という項目から，F3“自己主張性”と名付けた。

2. 信頼性分析

状況別対人不安尺度と自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の各項目に関して，信頼性分析を行った。

最初に, 状況別対人不安尺度の「発表･発言不安」α 係数は .910 であった。「目上への不安」α 係数は .858 であった。「異性への不安」α 係数は .840

表１　状況別対人不安尺度の信頼性分析

	発表・発言不安	目上への不安	異性への不安	親しくはない相手不安	会話のない不安
α 係数	.910	.858	.840	.874	.795

表２　自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の信頼性分析

	有能感	優越感・注目・賞賛欲求	自己主張性
α 係数	.897	.872	.814

であった。「親しくはない相手不安」α 係数は .874 であった。「会話のない不安」α 係数は .795 であった。5 下位尺度それぞれの内的一貫性は十分であると判断した。

自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の場合は,「優越感・有能感」の α 係数は .897 であった。「注目・賞賛欲求」の α 係数は .872 であった。「自己主張性」の α 係数は .814 であった。3 下位尺度それぞれの内的一貫性は十分であると判断した。

3. *t* 検定

状況別対人不安尺度の「発表・発言不安」「目上への不安」「異性への不安」「親しくはない相手不安」「会話のない不安」について *t* 検定を行った。「発表・発言不安」$t(161) = .696, n.s.$ であった。「親しくはない相手不安」$t(105.794) = .946, n.s.$ であった。「異性へ状況不安」$t(161) = 1.215, n.s.$ であった。「会話のない不安」$t(106.012) = .581, n.s.$ であった。「目上への不安」$t(161) = .281, n.s.$ であった。状況別対人不安尺度の男女差に有意差が見られなかった。

自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の「注目・賞賛欲求」「優越感・有能感」「自己主張性」について t 検定を行った。「注目・賞賛欲求」$t(161)=.456, n.s.$ であった。「優越感・有能感」$t(161)=.709, n.s.$ であった。「自己主張」$t(161)=.589, n.s.$ であった。自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の男女差に有意差がみられなかった。

4. 重回帰分析

性別に関係なく得たデーター全体の状況別対人不安尺度と自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の相関関係の分析を行った。

「発表・発言不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -274, p < .001$ でやや弱い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.018$ で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = .041$ で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = .497, p < .001$ で比較的強い有意な正の相関がみられた。「目上への不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.138$ で有意な相関はみられなかった。

「発表・発言不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = -.335, p < .001$ でやや弱い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = -.130$

表3　状況対人不安についての重回帰分析結果

	注目・賞賛欲求	優越感・有能感	自己主張性
発表・発言不安	− .274***	− .335***	− .390***
親しくはない相手不安	− .018	− .130	− .023
異性への不安	.041	.073	− .083
会話のない不安	.497***	.256***	.198
目上への不安	− .138	− .085	− .093

***p<.001

で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = .073 で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = .256, p < .001 でやや弱い有意な正の相関がみられた。「目上への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = − .085 で有意な相関はみられなかった。

「発表・発言不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .390, p < .001 でやや弱い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .023 で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .083 で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「自己主張性」の相関関係は β = .198 で有意な相関はみられなかった。「目上への不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .093 で有意な相関はみられなかった。

次に，男女別に状況別対人不安尺度と自己愛人格目録短縮 (NPI-S) の相関関係の分析を行った。まず，女性の結果は「発表・発言不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は β = − .401, p < .001 で比較的強い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は β = .234, p < .001 でやや弱い有意な正の相関かみられた。「異性への不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は β = .195 で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は β = .029 で有意な相関はみられなかった。「目上への状況」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は β = − .016 で有意な相関はみられなかった。

「発表・発言不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = − .400, p < .001 でやや弱い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = − .039 で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = .032 で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = − .169 で有意な相関はみられなかった。「目上への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は β = .175 で有意な相関はみられなかった。

「発表・発言不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .533, p < .001 で比較的強い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「自己主張性」の相関関係は β = .190 で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「自己主張性」の相関関係は β = .115 で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .234, p < .001 でやや弱い負の相関がみられた。「目上への不安」と「自己主張性」の相関関係は β = − .082 で有意な相関はみられなかった。

表 4　状況対人不安についての重回帰分析結果 (女子)

	注目・賞賛欲求	優越感・有能感	自己主張性
発表・発言不安	− .401***	− .400***	− .533***
親しくはない相手不安	.234***	− .039	.190
異性への不安	.195	.032	.115
会話のない不安	.029	− .169	− .234***
目上への不安	− .016	.175	− .082

***p<.001

表 5　状況対人不安についての重回帰分析結果 (男子)

	注目・賞賛欲求	優越感・有能感	自己主張性
発表・発言不安	− .078	− .250***	− .191
親しくはない相手不安	− .148	− .130	− .178
異性への不安	− .014	.095	− .133
会話のない不安	.687***	.478***	.387***
目上への不安	− .245***	− .256***	− .138

***p<.001

男性の結果は ,「発表・発言不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.078$ で有意な相関はみられなかった。「親しくはない相手不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.148$ で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.014$ で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = .687$, $p < .001$ で比較的強い有意な正の相関がみられた。「目上への不安」と「注目・賞賛欲求」の相関関係は $\beta = -.245$, $p < .001$ でやや弱い有意な負の相関がみられた。

「発表・発言不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = -.250$, $p < .001$ でやや弱い有意な負の相関がみられた。「親しくはない相手不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = -.130$ で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = .095$ で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = .478$, $p < .001$ で比較的強い有意な正の相関がみられた。「目上への不安」と「優越感・有能感」の相関関係は $\beta = -.256$, $p < .001$ でやや弱い有意な負の相関がみられた。

「発表・発言不安」と「自己主張性」の相関関係は $\beta = -.191$ で有意な相関はみられなかった。「親しくはない相手不安」と「自己主張性」の相関関係は $\beta = -.178$ で有意な相関はみられなかった。「異性への不安」と「自己主張性」の相関関係は $\beta = -.133$ で有意な相関はみられなかった。「会話のない不安」と「自己主張性」の相関関係は $\beta = .387$, $p < .001$ でやや弱い有意な正の相関がみられた。「目上への不安」と「自己主張性」の相関関係は $\beta = -.138$ で有意な相関はみられなかった。

考察

本研究は，状況別対人不安について自己愛傾向という視点から検討することを目的とした。

t 検定により状況別対人不安尺度と自己愛それぞれの男女差はみられなかったため，仮説 1 は支持されなかった。しかし，清水･海塚 (2002) では、男子の方が女子よりも有意に高い得点を示した。本研究において男女差が見られなかった原因としては，質問紙の調査を行った男子と女子の人数の差が大きかったためではないかと考える。

性別に関係なく相関関係の分析を行った結果は，「発表・発言不安」が高い人は，「注目・賞賛欲求」，「優越感・有能感」，「自己主張性」が低かった。よって仮説 2 は支持された。また，「会話のない不安」が高い人は，「注目・賞賛欲求」，「優越感・有能感」が高かった。「発表・発言不安」が高く，「注目・賞賛欲求」，「優越感・有能感」，「自己主張性」が低いということは，人がたくさんいるところでの発表など人前に出て何かする場合に，注目されることが苦手または恐怖だと感じ，自分の才能を低評価するため自分への自信がないまたは低いのではないかと考える。森田 (1960) は対人恐怖者の抱えている実際の悩みについて赤面恐怖や視線恐怖といった恐怖が存在していることを示唆していることから，人がたくさんいる状況で行動を起こさなければいけない「発表・発言不安」が強く作用するため「注目・賞賛欲求」，「優越感・有能感」，「自己主張性」が低くなるという結果につながったと考える。また，赤面恐怖や視線恐怖といった恐怖が岡野 (1998) の対人不安者が最も恐れる「恥」という感情を引き出しているのではないかと考える。

「会話のない不安」が高い人は，「注目・賞賛欲求」と「優越感・有能感」が高かった。よって仮説 3 は支持された。毛利･丹野 (2011) によると，「会話のない不安」には単に会話がないという状態ではなく「会話したい」のに「会話できていない」という状況があらわれるのではないかと考えられている。よって，自分がうまく会話に入ることができていない場合や会話が続かないといった「会話ができていない」状況に不安を感じ，会話したいのにできていないという状況において「もっと会話がしたい」という欲求が「もっと注目を集めたい」「私の才能を知ってもらいたい」という自己愛を高くしたと考える。

男女別に相関関係の分析を行った結果は，女子が「発表･発言不安」が高く，「注目･賞賛欲求」，「優越感･有能感」，「自己主張性」が低かった。また，「会話のない不安」は高く，「自己主張性」が低くかった。「親しくはない相手不安」は高く，「注目･賞賛欲求」は高かった。よって，仮説 4 は一部支持された。女子はグループで行動していることが多い。自分が目立つ行動をしてしまうと仲間から外されてしまうかもしれないというような不安を日ごろから持っている。他者からの評価に大きな不安を持つ女子は，グループ外であっても評価が悪くならないように自分を控えめに表現しているのではないかと考えられる。また，「会話のない不安」と「自己主張性」に負の相関がみられたことは，グループ内で会話をする際に自分だけ話に参加できないと嫌われているのではないかと不安になるために，話の輪に入ろうとするがうまく入れなかった時のことを考えてしまい「自己主張性」が低くなってしまうのではないかと考える。また，「親しくはない相手不安」と「注目･賞賛欲求」に正の相関がみられたことは，グループ外では控えめに表現しているが本当はもっと注目されたいという欲求があるのではないかと考えられる。

他方，男子は，「会話のない不安」が高く，「注目･賞賛欲求」，「自己主張性」が高かった。また，「目上への不安」が高く「注目･賞賛欲求」，「優越感･有能感」は低かった。「発表･発言不安」が高く，「優越感・有能感」は低かった。よって，仮説 5 は一部支持された。

女子が「会話のない不安」が高く，「自己主張性」が低いのに対して，男子は「会話のない不安」が高く，「自己主張性」が高かった。これは，「自分だけが話の輪の外にいるとき」「会話が途切れがちなとき」などの項目が含まれる「会話のない不安」において，単に会話がないという状態ではなく「会話したい」のに「会話ができていない」という心理的背景があるのではないかと考えられる。会話したいのにできていないという状況において「もっと会話がしたい」という欲求が「もっと注目を集めたい」，「自分の才能を知ってもらい

たい」という「注目・賞賛欲求」,「自己主張性」を高くしたのではないかと考える。「発表・発言不安」が高く,「優越感・有能感」は低かったのは，人がたくさんいるところでの発表など人前に出て何かする場合に生じる不安が多く含まれている「発表・発言不安」が高いので,「才能に恵まれた人間であると思う」「周りの人達より，優れた才能を持っていると思う」「周りの人に影響を与えることができるような才能を持っている」といった自分の才能を評価するような項目が多く含まれている「優越感・有能感」とは違い，あまり自分の才能を評価していないか，自分の才能を低評価しているため「優越感・有能感」が低くなったと考える。

大学生女子は「発表・発言不安」と自己愛の全項目に負の相関がみられ，大学生男子は「発表・発言不安」と「優越感・有能感」に弱い負の相関がみられた。これは，男子よりも女子の方が発表や発言することにより目立つことが良いとは考えていないことが示唆された。逆に男子は発表・発言をすることで自分は才能があるといった「優越感・有能感」を感じる人が多いことが明らかになった。さらに，男子は「会話のない不安」と自己愛の全項目に正の相関がみられ，発表・発言をすることで「優越感・有能感」を感じるのだが会話したいのにできていない人が多いことが考えられる。

「親しくはない相手不安」と「異性への不安」は性別に関係なく重回帰分析した結果でも男女別に関係なく重回帰分析した結果でも相関がなかったのは，男女ともに他府県から多くの学生が入学してくる大学ではあまり親しさは意識しないのではないか。また，最近は異性でも親友はできると考える傾向もあるため性別は特に意識しない人が多いのではないかと思われる。

最後に，対人不安と自己愛傾向との関連を調査する研究が多く行われているが，対人不安的心性を状況別対人不安という観点から調査した研究は，これまでに認められない。そのため，今回，状況別対人不安という視点からの検討を行った。その結果,「発表・発言不安」と自己愛に関連が見られた。また，女子が「会話のない不安」が高く,「自己主張性」が低いのに対して，男子は「会話のない不安」が高く,「自己主張性」が高いという性差による違いもみることができた。よって，状況別対人不安という視点から自己愛の検討を行ったこの研究は有意義であったと考える。

また，自己愛と羞恥に関連があると「問題」の項で取り上げたが，今回の調査結果から「発表・発言不安」に負の相関がみられたことから, 発表・発言をすることで恥をかきたくないという女子が多いことが明らかになった。今後は，状況別対人不安と恥の関係も調査する必要があると考える。さらに，今回の調査では，男子と女子の人数の差が大きかったために，男女差の問題を考えるには不適切であったことから，今後の研究では男女差の人数差が大きくなりすぎないようにしたいと考える。

参考・引用文献

Leary, M. R. (1983) Social Anxiousness: The Construct and Its Measurement, *Journal of Personality Assessment* 47(1) 66-75

Leary, M. R. (1983) SOCIAL ANXIETY, *Social, Personality, and Clinical Perspectives*

Judd, L.L (1994) Social phobia: A clinical overview. *Journal of Clinical Psychiatry* 55(suppl.6) 5-9

生和秀敏 (監訳)(1990) 対人不安 北大路書房

岡野憲一郎 (1998) 恥と自己愛の精神分析―対人恐怖から差別論まで― 岩崎学術出版社

毛利伊吹・丹野義彦 (1998) 対人不安を喚起する状況―対人状況の分類と対人不安のタイプ― 日本心理学会第 62 回大会発表論文集 156

毛利伊吹・丹野義彦 (2001) 状況別対人不安尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 健康心理学研究 14(1) 23-31

永井撤 (1994) 対人恐怖の心理―対人関係の悩みの分析― サイエンス社

稲波正充・笠原嘉 (1968) 大学生と対人恐怖 全国大学保健管理協会誌 4 24-28

木村駿 (1982) 日本人の対人恐怖 勁草書房

森田正馬 (1960) 神経質の本質と療法 白楊社

American Psychiatric Association(1994) *Diagnostic Journal of Psychiatry* 139 12-20

小塩真司 (1998)　青年の自己愛傾向と自尊感情, 友人関係のあり方との関連　教育心理学研究 46　280-290
北西憲二 (1998)　自己の心理学　自己意識過剰―対人不安―　こころの科学　82　37-41
清水健司・海塚敏郎 (2002)　青年期における対人恐怖心性と自己愛傾向の関連　教育心理学研究　50
清水健司・川邊浩史・海塚敏郎 (2007)　青年期における対人恐怖心性と自己愛傾向の相互関係について　78(1)
中村千尋・高木秀明 (2012)　青年期における対人不安・緊張の構造―発達段階による変化に着目して―　横浜大学大学院　教育研究科　教育相談・支援総合センター　研究論集　12
万代ツルエ (2007) 状況別対人不安と自己呈示の関係　甲南女子大学大学院論集第 5 号
岡田努 (1995) 「ふれあい恐怖的心性」に関する予備的考察　日本教育心理学会第 37 回総会発表論文集　450

大学生の意識調査

この調査は，大学生の対人関係に関する意識を調査するものです。
6 枚の質問紙で構成されていますので，それぞれについて，ありのままにお答えください。
その際，回答漏れのないようにお願いします。

なお，結果は全て統計的に処理されますので，個人がどのように回答を行ったかについて問題にしたり，公表したりすることはありません。

回答の途中に体調が悪くなったり，精神的な苦痛を感じられた場合は，回答をやめていただいて構いません。

この質問紙により，個人が特定されることはありませんので，ご協力いただければ幸いです。

年齢(　　)歳

性別(　男　・　女　)

京都学園大学　人間文化学部
心理学科　久保ゼミ　山下侑美奈

以下の項目は，普段のあなたにあてはまりますか。各項目について，最も近いと思うものを 1〜5 の中から一つ選びその数字を〇で囲んで下さい。

【選択肢】
1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. どちらともいえない
4. 当てはまる
5. 非常に当てはまる

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
1. 私は，目上の人(先生や上司，先輩など)と会うのがこわい	1	2	3	4	5
2. 大勢の前で自己紹介するとき私は他の人達より落ち着かない気がする	1	2	3	4	5
3. 会議中に自分の考えを聞かれたとき，私はとても緊張する	1	2	3	4	5
4. 嫌いな人(同性)が話しかけてきたとき，私は他の人達より落ち着かない気がする	1	2	3	4	5
5. 人前で話すときの緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
6. 異性と二人だけになるとき，私は他の人達より落ち着かない気がする	1	2	3	4	5
7. 特別は親しくない友人(同性)に話しかけるとき，私はとても緊張する	1	2	3	4	5
8. ミーティング中に何か提案するとき，私は他の人達より落ち着かない気がする	1	2	3	4	5
9. 多くの人の前で原稿を読むとき，私はとても緊張する	1	2	3	4	5
10. 人前に出て何かするとき，私は不安を感じる	1	2	3	4	5

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
11. 私は，あまり知らない異性と話すのがこわい	1	2	3	4	5
12. 初めてあった人と雑談しているとき，私は他の人たちより落ち着かない気がする	1	2	3	4	5
13. あまり親しくない同年代の人(同性)に出会ったとき，私は不安を感じてしまう	1	2	3	4	5
14. 私は，話し合いの場で自分の意見を述べるのがこわい	1	2	3	4	5
15. 目上の人(先生や上司，先輩など)と二人だけになるとき，私は不安を感じる	1	2	3	4	5
16. とても苦手な人(同性)と偶然出会ったときの緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
17. 私は，人と話していて自分のついていけない話題になるのがこわい	1	2	3	4	5
18. 異性の知人とばったり出会ったとき，私はとても緊張する	1	2	3	4	5
19. 話がはずまない時の緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
20. 単なる知り合い(同性)で同年代の人と一緒にいるときの緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
21. 私は，人がたくさんいる所で発表するのがこわい	1	2	3	4	5
22. 好感を持っている異性と一緒にいるとき，私は不安を感じてしまう	1	2	3	4	5
23. 他の人達が会話しているところに入れない時の緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
24. 全く気の合わない人(同性)と雑談しているとき，私はとても緊張する	1	2	3	4	5
25. 自分だけが話の輪の外にいるとき，私は不安を感じる	1	2	3	4	5
26. 自分より立場が上の人(先生や上司，先輩など)に話しかけられた時の緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
27. 会話が途切れがちなとき，私は不安を感じる	1	2	3	4	5
28. 気になる異性に話しかけるときの緊張感は，他の人より私の方が強いと思う	1	2	3	4	5
29. 私は，あまりよく知らない友人(同性)と二人だけになるのがこわい	1	2	3	4	5
30. 自分より立場が上の人(先生や上司，先輩など)と一緒にいるとき，私は他の人達より落ち着かない気がする	1	2	3	4	5

以下の項目は，普段のあなたにあてはまりますか。各項目について，最も近いと思うものを 1〜5 の中から一つ選びその数字を〇で囲んで下さい。

【選択肢】
1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. どちらともいえない
4. 当てはまる
5. 非常に当てはまる

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
1. 私は，才能に恵まれた人間であると思う	1	2	3	4	5
2. 私には，みんなの注目を集めてみたいという気持ちがある	1	2	3	4	5
3. 私は，自分の意見をはっきり言う人間だと思う	1	2	3	4	5
4. 私は，周りの人達より優れた才能を持っていると思う	1	2	3	4	5
5. 私は，みんなからほめられたいと思っている	1	2	3	4	5
6. 私は，控えめな人間とは正反対の人間だと思う	1	2	3	4	5
7. 私は，周りの人達より有能な人間であると思う	1	2	3	4	5
8. 私は，どちらかといえば注目される人間になりたい	1	2	3	4	5
9. 私はどんな時でも，周りを気にせず自分の好きなように振る舞っている	1	2	3	4	5
10. 私は，周りの人が学ぶだけの値打ちのある長所を持っている	1	2	3	4	5
11. 周りの人が私のことを良く思ってくれないと，落ちつかない気分になる	1	2	3	4	5
12. 私は，自分で責任を持って決断するのが好きだ	1	2	3	4	5

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
13. 周りの人々は，私の才能を認めてくれる	1	2	3	4	5
14. 私は，多くの人から尊敬される人間になりたい	1	2	3	4	5
15. 私は，どんなことにも挑戦していくほうだと思う	1	2	3	4	5
16. 私は，周りの人に影響を与えることができるような才能を持っている	1	2	3	4	5
17. 私は，人々を従わせられるような偉い人間になりたい	1	2	3	4	5
18. これまで私は自分の思う通りに生きてきたし，今後もそうしたいと思う	1	2	3	4	5
19. 私が言えば，どんなことでもみんな信用してくれる	1	2	3	4	5
20. 機会があれば，私は人目につくことを進んでやってみたい	1	2	3	4	5
21. いつも私は話しているうちに話の中心になってしまう	1	2	3	4	5
22. 私に接する人はみんな，私という人間を気に入ってくれるようだ	1	2	3	4	5
23. 私は，みんなの人気者になりたいと思っている	1	2	3	4	5
24. 私は，自己主張が強いほうだと思う	1	2	3	4	5

	全くあてはまらない	当てはまらない	どちらともいえない	当てはまる	非常に当てはまる
25. 私は，どんなことでも上手くこなせる人間だと思う	1	2	3	4	5
26. 私は，人々の話題になるような人間になりたい	1	2	3	4	5
27. 私は，自分独自のやり方を通すほうだ	1	2	3	4	5
28. 周りの人達が自分のことを良い人間だと言ってくれるので，自分でもそうなんだと思う	1	2	3	4	5
29. 人が私に注意を向けてくれないと，落ちつかない気分になる	1	2	3	4	5
30. 私は，個性の強い人間だと思う	1	2	3	4	5

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。